

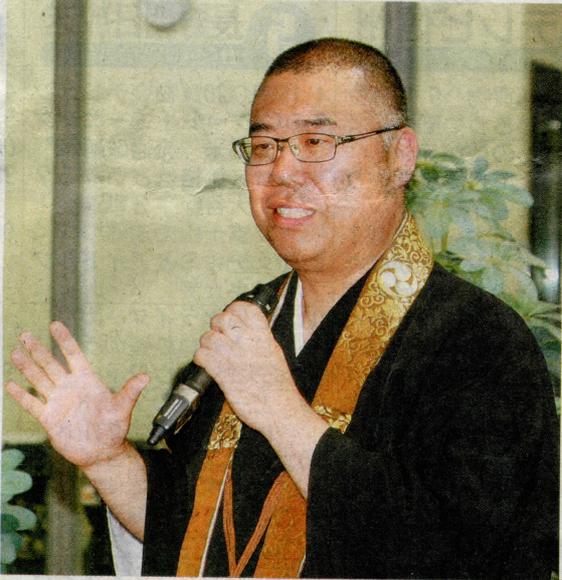
# 縁あつた高野山と諏訪地域

## 諏訪で 学習会 岩崎住職（仏法紹隆寺）解説

諏訪地域の歴史や文化、信仰などについて研究、発信する大昔調査会（諏訪市）は16日夜、学習会「大昔カフェ」を同市の駅前交流テラスすわっチャオで開いた。世界遺産・高野山と諏訪地域の縁について真言宗の僧侶で仏法紹隆寺（同市四賀）の岩崎有全住職が解説した。

（野村知秀）

高野山は、江戸時代まで続 諏訪大社）とともにあつた神  
いた神と仏と一緒にまつる神 宮寺と関係が深く、岩崎住職  
仏習合の時代に諏訪神社（現）によると、神宮寺の住職が高



高野山と諏訪との縁について語る岩崎有全住職

野山にある金剛頂院の住職を  
兼ね、同院の住職が神宮寺の  
住職を兼ねた歴史があるとい  
う。

学習会では、真言宗や高野  
山、総本山の金剛峯寺などに  
ついて語った上で諏訪とのつ  
なかりを紹介。高野山之院に  
は江戸時代、諏訪地域を治め  
た高島藩歴代藩主、諏訪家の  
墓所がある。諏訪家の墓所は  
初代藩主の頼水が茅野市ちの  
の頼岳寺、2代目以降が諏訪  
市湯の脇の温泉寺にあるが、  
高野山にあるのは、頼水の父、  
頼忠から明治以前に亡くなっ  
た歴代藩主の髪や爪など体の

一部を納めた供養塔群。56億  
7000万年後に降臨すると  
される弥勒菩薩の御利益を受  
けようと全国の大名が墓所を  
構えた中に諏訪家もある。た  
だ、高島藩は江戸時代初期か  
ら末期まで一貫して諏訪家が  
藩主を務めたため、ほかの大  
名家と比べ、墓所が広い。

また、茅野市玉川の長円寺  
に残る古文書の写本による  
と、神と仏と一緒にまつる神  
仏習合の時代に生まれた経で  
2022年に行われた神宮寺  
由来の仏像の一斉公開企画  
「諏訪神仏プロジェクト」の  
際に岩崎住職が諏訪大社の神  
前で奉納した諏訪大明神にさ  
さげる「諏方講之式」が毎年  
「正月二日早朝」に高野山で  
唱えられていたとする記載内  
容も紹介した。岩崎住職は毎

年1月2日に唱えられていた  
とするには、さらに検証が必  
要だが、「少なくとも高野山  
で諏訪大明神を拝んでいたと  
いうことは事実だろう」と語  
った。

この他、高野山の根本大塔  
再建のための寄進に関する江  
戸時代の資料には「仏法紹隆  
寺」、「上ノ神宮寺」、「下ノ神  
宮寺」など諏訪地域の寺院の  
表記があることも紹介した。